

校内郷土資料館を活用した昔の暮らし調べ

1. 単元名「昔の川和のまちにタイムスリップ」

2. 単元目標

古くから残る暮らしに関わる道具の様子やそれらの使い方を具体的に調べたり、それらに伴う地域の人々の生活の変化を調べることを通して昔の生活における人々の知恵や工夫に気付いたり、地域の人々の生活の変化や人々の願いを考えたりする。

また、地域に伝わる文化財や年中行事に関心をもって調べることで、地域の人々がそれらを大切に保存し継承し、地域の発展やまとまりを求める人々の願いに気付くようにするとともに、地域への愛情を深めるようにする。

3. 評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

- ・川和のまちの人々の生活の変化や地域の人々が受け継いできたお囃子などの文化財やどんど焼きなどの年中行事に関心をもち、意欲的に調べている。
- ・川和のまちの人々の生活の歴史的な背景や川和のまちの発展を願ってきた人々の生き方を考えようとしている。
- ・川和のまちの一員として、川和のまちに伝わるお囃子などの文化財やどんど焼きなどの年中行事を保存し継承することの大切さを考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

- ・川和のまちの人々の生活の変化や川和のまちの人々が受け継いできたお囃子などの文化財やどんど焼きなどの年中行事について、学習問題や予想、学習の見通しをもって考え、表現している。
- ・調べたことを現在の自分たちの生活の様子と比較したり、人々の生活の変化と人々の願いを関連付けたりして、当時の生活における人々の知恵や工夫について考え、適切に表現している。
- ・調べたことをもとに、お囃子などの文化財やどんど焼きなどの年中行事を保存し継承してきた人の工夫や努力と川和のまちの人々の願いとを関連付けて、保存し継承することの大切さを考え、適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

- ・お囃子などの文化財やどんど焼きなどの年中行事を観点に基づいて見学したり川和のまちの方から聞き取り調査をしたりして、古くから残る暮らしにかかわる道具の使い方やそれらを使っていた頃の暮らしの様子についての情報を集めて、読み取っている。
- ・お囃子などの文化財やどんど焼きなどの年中行事、郷土資料館などを観点に基づいて見学したり地域の方から聞き取り調査をしたりして、それらを保存し継承してきた人々の取組についての情報を集めて読み取っている。
- ・調べたことを年表や白地図、学習カード、作品等にまとめている。

【社会的事象についての知識・理解】

- ・古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていた頃の暮らしの様子が分かっている。
- ・川和のまちの人々が受け継いできたお囃子などの文化財やどんど焼きなどの年中行事の様子、それらを保存し継承してきた人々の工夫や努力が分かっている。

4. 単元について

川和のまちには地区名に「宿」「上サ」「山王原」など昔とつながる名前がある。学校の周りにも、八幡神社、富士塚、忠魂碑、庚申塔などがあり、昔からの歴史を伝えている。また、川和小学校内にある郷土資料館には、昔の道具がたくさんあり、手に触れることができる。歴史ある川和のまちで、子どもたちにとってより身近なものを教材に取り上げたい。

子どもたちは歴史ある川和のまちに住んでいるが、昔の歴史について実感がない。八幡神社のお祭りや地域主催のどんど焼きに参加している子どももいるが、お囃子やどんど焼きをする理由については分からない子がほとんどである。

そこで、本単元では、川和のまちに伝わるお囃子やどんど焼きを行うまちの人々の姿に関心をもって調べることで、川和のまちの人々がそれらを大切にし、受け継いでいる思いや、川和のまちの発展を願っていることに気付き、地域への愛情を深めたい。また、学校の記念誌を活用したり、祖父母や、父母などに実際に話を聞いたりしながら、川和のまちや人々の生活の移り変わりを調べ、さらに洗濯板で実際に洗濯する活動を取り入れることで昔の人々の知恵や工夫に気付いたり、地域の人々の生活の変化や人々の願いを考えたりしていきたい。

※八幡神社・・・河輪神といって、川をまつる神様であった。その頃は川が荒れて人々が大変困ったので、川の神様としてお祭りをしたそうである。いつの頃からか、応神天皇と一緒におまつりしたので、その名前が八幡宮と呼ばれるようになった。

※忠魂碑・・・川和からもたくさんの人々が戦争に行き、多くの戦死者を出した。その方々の霊を慰めるために、現在は八幡神社の境内に複数の忠魂碑が建てられている。

※庚申塔・・・60日ごとに回ってくる庚申の夜、寝ないで身も心も清め、病気等の不幸がないように信仰したそうである。また、まちの道しるべとしても、村はずれの所などによく見受けられる。

※どんど焼き・・・毎年1月14日に、地域が主催するどんど焼きが校内で行われている。人々が集まり魔除けと無病息災を願い、ならとかしの木にだんごをさして焼くならわしだ。正月の松飾りや、1年間に各寺院や神社からいただいたお札を持ち寄る。子どもたちは書き初めを燃やし字が上手になりようにとの願いを込め、その火でだんごを焼いて食べる。



5. 指導計画（18時間扱い）

主な学習活動と内容(時間数)	主な資料(●)と教師の支援(◇)等
<p>1. 自分が住むまちの昔のこと、自分の家に昔からあるものなどについて、知っていることを発表する。 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち探検で八幡神社や妙蓮寺などがあった。 ・お祭りで笛を吹いたり、楽器で演奏したりしていた。 ・学校の郷土資料館には昔の道具がたくさんある。 ・わらぐつやわらぞうりがあった。 ・家には倉庫の中に古い道具がしまっている。 ・昔は、釜でご飯を炊いて食べていたようだ。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">昔はどんなくらしをしていたのか、調べてみよう。</p> <p>2. 校内の郷土資料館に行き、昔の道具を見学したり、道具の使い方を調べたりする。 (3時間) (本時3/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤルを回して電話で話をしたようだ。 ・かまどでご飯を炊いたそうだけど、どのように使ったのか。 ・ストーブや火鉢があるけど、火のつけ方はどうしたのか。 ・今のアイロンと違って、炭火やお湯を入れて使うアイロンもあった。 ・今の道具と昔の道具を比べて、使い方が違うものが多い。 ・昔の道具の使い方について分からないことを、学芸員さんに聞いてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでも昔の道具を使って調べてみたい。 <p>3. 洗濯板による洗濯の体験をきっかけにして、昔の道具や昔の生活について調べる。 (3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たらいや洗濯板を使う洗濯の方法を調べる。 ・地域の方に教えてもらったやり方で洗濯をする。 ・洗濯の体験を振り返り、洗濯機によるやり方との違いを発表する。 	<p>◇子どもがイメージしやすいようにするために、昔と今の川和のまちの航空写真や郷土資料館にある昔の道具の写真を活用するようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昔と今の川和のまちの航空写真 ●郷土資料館にある昔の道具の写真  <p>◇昔の道具の使い方について分からないことを、祖父母や地域の方、あるいは博物館の学芸員さんに説明を受けるようにする。</p>  <p>◇数ある昔の道具の中から、使い方が違うものに着目し、実物や写真などから疑問・関心を持てるようにする。</p> <p>◇洗濯板の使い方を分かりやすくするために、洗濯板の使い方を絵に表したものを掲示するようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●洗濯板の使い方の絵

4. 昔の様子はどのようなだったか、Aさんから子どものころの遊びや暮らしについて話を聞く。(2時間)

- ・学校での生活や遊びは今と違うもの、似ているものなどがある。
- ・遊びだけでなく、家の手伝いなどもあった。
- ・昔の学校の時間割を見ると、土曜日にも勉強をしている。
- ・給食の献立表を見るとパンは出るが、ご飯はでなかった。

5. 年表に昔の生活と今の生活を比べてまとめる。

(2時間)

- ・絵カードをまとめて年表を作ってみよう。
- ・食べること、身につけていたこと、住まいのことなどいくつかまとめて年表を完成させよう。
- ・昔は手で動かす木製の道具が多かった。
- ・段々と電気で動かす道具が増えてきた。

6. お囃子やどんど焼きについて、聞いたこと・知っていることを出し合い、調べる。(2時間)

- ・お囃子やどんど焼きはいつ頃から始まったのか。
- ・参加している人たちはどこの人たちなのか。

7. お囃子やどんど焼きの起源について、Bさんに聞いたり、お囃子の体験をしたりする。(3時間)

- ・楽器(太鼓、鐘など)、かけ声を教えてもらう。
- ・祭りの存続のために自分たちにできること
- ・お囃子に対する思いや子どもたちに望むことなど

8. お囃子やどんど焼きを受け継いできた人たちの努力や苦労について考え、話し合う。(2時間)

- ・そこまでしてお囃子を続けているのはすごい。
- ・このまま後を受け継ぐ人がいないと、会を解散しなくてはいけない。
- ・会の人たちは何とか保存したいと努力している。

◇地域の人との話がスムーズに進むようにするために、地域の人に事前に子どもからの質問を伝えておくようにする。

- こまやめんこ、お手玉など
- 服装や履物、遊びの様子の分かる写真など
- 昔の時間割や献立表など

◇年表にまとめやすくするために、ワークシートを活用することで、比較しやすいようにする。

◇お囃子やどんど焼きの写真を活用することで子どもがイメージしやすいようにする。

- お囃子やどんど焼きの写真



◇体験を通してお祭りやお囃子のよさと自分の生活との関わりについて触れられるようにする。

◇子ども全員が体験できるようにするために、事前に打ち合わせをしたり、場の工夫をしたりする。

◇話し合いを活発にするために、前時にインタビューしたものをまとめたものを掲示しておくようにする。

6. 本時目標

昔から残る暮らしに関わる道具の様子（例として、火のしと炭火アイロン）を観察し、それらの使い方から分からないところを学芸員の方に聞くことから、昔と今の道具の違いや生活における工夫や知恵に気付く。

7. 本時展開（4 / 18）

学習活動と内容	資料(●)と教師の支援(◇)等
<p>1. 郷土資料館にある昔の道具（例：火のしと炭火アイロン）で、どのように使っていたか観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火のしは、炭火アイロンと形が違っている。 ・火のしは、どのように使ったのだろうか。 ・炭火アイロンの形は今のアイロンと似ている。 ・手で握るところが持ちやすくなっている。 ・前の方に大きな穴があいているが、何だろう。 ・炭火アイロンには、電気のコードがないけど、どのように使うのだろうか。 <p>2. 火のしや炭火アイロンの使い方について、分からないところを学芸員さんから話を聞く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学芸員さんの話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火のしという道具は、炭火を入れて底が熱くなったら、しわをのばした。 ・炭火アイロンは、蓋をあけて熱い炭を入れ、その熱でしわをのばした。 ・火のしは、和服のしわをのばすのに便利だった。 ・洋服が多く着られるようになると、炭火アイロンが使われるようになった。 </div> <p>3. 今のアイロンと比べて、昔のアイロンの使い方など違いについて考え、感想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炭火を用意するのに、時間がかかる。 ・炭火でアイロンかけの時、汚れないか。 ・洗濯物のしわをのばすところは、昔も今も変わらない。 ・電気のコードがないので、何処でも使える。 ・使った炭火は暖房に使いそう。 ・電気を使わないでもいいので、節約になる。 ・昔から今までに、段々と道具が改良されてきているようだ。 <p>・次は、昔の道具を使って体験してみたい。</p>	<p>●郷土資料館にある「炭と炭火アイロン」の実物</p>  <p>◇観察の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち手部分 ・煙突の部分 ・蓋の開閉 ・空気穴の部分 など <p>●スチームアイロンの実物</p>  <p>◇観察の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気のコード部分 ・温度調節のダイヤル ・水の入れ口と蒸気の出口 など <p>◇事前に学芸員の方に、子どもの疑問に思っていること・分からないことなどを知らせておくことで、授業を円滑に進められるようにする。</p>  <p>◇昔と今のアイロンを観察したことから、昔と今の道具の類似点や相違点、使い方の違いなどを考えられるよう支援する。</p> <p>●今昔のアイロンに限らず、氷冷蔵庫と電気冷蔵庫、たらい・洗濯板と洗濯機、かまど・釜と炊飯器など、実物が写真などで調べることも考えられる。</p> <p>◇ここでは、「洗濯板を使った体験活動」を想定したが、他に七輪を使った体験などが考えられる。</p>

8. 博物館と学校の連携

① 学芸員による訪問授業（例）

●校内郷土資料館の道具類・・・全般的な解説方法
単元の初めでは、校内郷土資料館にある道具の全般的な説明をしてもらうようにする。教室では、生活道具を《食料を冷やす・保存》《着物を洗う》《食事を作る》《部屋を暖める》など、何のために使われたのか類別できるように整理していくことが大切である。

●使い方の分からない道具類・・・的を絞った解説方法
数多い生活道具の中で、現在の道具との違いが顕著なもの、道具の使い方がよく分からないものなどを中心に、的を絞って学芸員に解説してもらうことも考えられる。

◆学芸員が訪問できない時は⇒参考図書の活用もある。

⇒参考図書 「ちょっと昔を探してみよう」

⇒参考図書 「不思議なかたちの道具たち」

※横浜市歴史博物館「ショップ」にて販売



② 博物館の支援による校内歴史資料室づくりと活用（例）

●資料の整備保管や表示プレートづくり

学校に保管されている資料は、長い年月には埃をかぶり、湿気による損傷などが起こってくる。また、地域から収集した貴重な資料でも《どんな名称で・いつ頃・どのように使われていたか》が不明となっている場合が多くみられる。

学校の要請があれば、資料の保存状況を確保したり、プレートで分かりやすく表示したりすることを、博物館が支援したい。



●目的・用途別に資料を類別し、見やすい展示場づくり

歴史資料室とする余裕教室のスペースと資料保管数とを調査した上で、農具類・漁具類・生活道具などに資料を類別し、見やすく学習しやすい展示場をレイアウトし、展示する。

●歴史資料室の場を活用した授業づくり

博物館学校連携担当（エデュケーター）と先生方と相談して、資料室の場を活用した授業展開法を考え、実践する。例として、国語【資料室での昔話の会】総合【ようこそ先輩～昔の学校あれこれ～】社会【昔の人の道具とくらし】など。

